

令和2年度第1回総合教育会議

- 1 日 時 令和2年8月19日（水曜日）
午後3時00分～午後4時50分
- 2 場 所 富士見市立中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 小野寺 巧
委員 簗輪 菊雄
委員 渡部 利枝子
委員 深井 美千代
- 4 署名委員 委員 簗輪 菊雄
委員 渡部 利枝子
- 5 説明職員 教育部長 林 みどり
教育部長 齊藤 宏
教育政策課長 鈴木 誠
学校教育課長 石井 勝博
子ども未来応援センター所長 土田 宗孝
- 6 事務局職員 総務部長 古屋 勝敏
秘書広報課長 森園 幸則
秘書広報課主任 仲澤 大気
- 7 傍聴者 1人
- 8 議 事
(1) 新型コロナウイルス感染症が子どもたちに与える影響について

○星野市長

みなさん。こんにちは。本日は大変暑い中、令和2年度第1回総合教育会議に、お集まりいただきましてありがとうございます。また、教育委員会議から引き続いての会議になりますが、長時間にわたるご協力に、心から感謝を申し上げます。

まず、私事ではございますが、7月26日施行されました富士見市長選挙におきまして、立候補をさせていただき、引き続き市政運営を担わせていただくことになりました。本日1期目の最終日を迎え、明日から新しい任期を迎えますが、教育に関しては私の大きな柱の政策の一つですので、これからも、皆さまとともに、富士見市の子どもたちや、市民の皆さまのため、しっかり取り組んでまいりたいと思います。

また、2月の中旬から今日まで、新型コロナウイルス感染症に対する皆さまのそれぞれの立場での、ご協力に感謝申し上げます。富士見市においては、2月から5月までは、10名程度の陽性者でしたが、残念ながら、現在42名まで陽性者の数が伸びてきています。こうした状況下では、一日でも早い陽性者の方のご回復をご祈念しつつ、また市としては、しっかりと対策を打ち、市民の皆さまの健康と命を守るということで、取り組んでまいりましたが、今後もこの点に関しましてはしっかりと努めてまいります。

学校におきましては、担任の先生をはじめ、保護者の方や子どもたちも大変な混乱があったと思います。支援策としましては、7月・8月の給食費を無償化すること、そしてこうした状況を少しでも軽減すべく、スクール・サポート・スタッフを増員し、全ての小・中学校に配置させていただきます。また、こうした状況の中で、受験を迎える中学3年生の子どもたちにもしっかりと支援をしたいという考えの中で、民間の事業者の皆さまに委託をさせていただき、受験対策講座を開設します。

本日の総合教育会議では、この内容でご議論をいただきますので、冒頭に教育委員会に関する事業に触れさせていただきました。

また、選挙戦にあたり、2期目のビジョン「ふじみビジョン30+2nd Step」を掲げさせていただきました。これまで1期4年の中で実施してまいりました「ふじみビジョン21+」をさらに拡充し、新たな政策分野も入れ、皆さまに訴えさせていただきました。冒頭申し上げたとおり、教育に関しては、「スクスク子育てと確かな教育は富士見市で」この思いを引き続きビジョンの中に入れさせていただきました。しっかりと取り組んでいくという姿勢は変えずに、富士見市の教育に力を注いでまいりたいと思います。

続きまして、本日のテーマでもあります新型コロナウイルス感染症につきましてお話しさせていただきます。緊急事態宣言以降、学校が6月まで休校という状況でございました。やはり子どもたちの心情を考えますと、大変重たい決断でございましたが、子どもたちの健康を守るという観点から、対策を取らなければならないという思いに駆られたところでございます。

こうした状況の中で、臨時休業の経験を経た子どもたちが、6月1日より分散登校が始まり、さらには、短い夏休みではございましたが、夏休みを経て、昨日、8月18日より、2学期が始まりました。子どもたちの現在の状況、特に、休業明けの1学期の部分などのご報告を頂戴したいと考えております。

また、全国的にも報道等でも心配されていましたが、本市における困窮世帯の子どもたちの状況はどうだったのか、子ども未来応援センターの所長が出席しておりますので、ご報告をさせていただければと思います。

まだまだ予断を許さない状況でありますので、子どもたちの状況をしっかりと把握させていただき、また、状況に応じて必要な支援策を打ち込んでまいりたいと思います。今日の会議におきましては、課題・問題点をあげていただきましたら幸いです。

最後にご報告をさせていただきますが、2月の定例会で承認を賜り、4月から再び山口教育長が教育長に任命され、そして、五十嵐委員の後任として、新たに深井委員が任命されました。総合教育会議は初めての出席ということで、よろしく願いいたします。

お二人を含め本席にいらっしゃる委員の皆さま方には、富士見市の教育の発展・推進にお力添えを賜りますよう、心からお願いを申し上げます。

本日の会議が実りある会議となることを、お願いさせていただき、市長としてのあいさつとさせていただきます。

○森園秘書広報課長

ありがとうございました。本日は、説明員として、林教育部長、齊藤教育部長、鈴木教育政策課長、石井学校教育課長、そして、土田子ども未来応援センター所長が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、以後の進行につきましては、星野市長にお願いいたします。

○星野市長

それでは、会議に移らせていただきます。初めに本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員に、簗輪委員と渡部委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日は冒頭にお話ししましたとおり、「新型コロナウイルス感染症が子どもたちに与える影響」について、議題とさせていただきたいと思います。それでは、学校での子どもたちの状況について、学校教育課長よりご説明をお願いいたします。

○石井学校教育課長

それでは、資料①に基づいて、コロナ禍における学校での子どもたちの様子などについて、ご説明をさせていただきます。

学校の対応経過として、3月2日から3月26日まで、臨時休業とする旨、また、卒業式は、規模を縮小して実施ということを、2月28日に保護者の方に通知させていただきました。また、4月12日まで休業期間を延長し、入学式も規模を縮小して実施するという通知を4月3日にしました。最終的には、5月31日まで、臨時休業を延長しまして、6月1日から学校を再開しましたが、再開時は分散登校とし、6月15日から中学校は通常どおり、小学校は短縮日課、給食後下校という措置を取りました。そして、6月22日から、小学校も通常日課となりました。

臨時休業中の児童生徒等の様子につきましては、児童生徒からは、「急に1年間が終わってしまった」「卒業式はできるのか」、また「外で遊んでもいい状況なのか」という声がありました。保護者からは、「入学式・卒業式はやるのかやらないのか」学校が再開されてからも、「給食が少ない」「オンライン授業などはできないのか」「運動会はどうするのか」「消毒準備は整っているのか」といった心配する声が寄せられました。教職員からは、「分散登校時に、給食を挟んでの前後半にわたる消毒は、課題が多い」というご意見がありましたが、6月15日に給食が始まったときには、一斉登校になっていましたので、その負担は免れたのかと思っています。また、教職員からもオンライン教育を市として進められないかといった声をいただきました。

学習面では、どのように宿題・課題を出すのかということが大きな課題でした。配布の仕方については、学校で配布をしたり、ポスティングをしたりということで、保護者の思いを受け止めながら、メール等で一斉配信するなど情報共有をしておりました。また、市のホームページを活用し、AETが作成動画などのコンテンツを用意し、少しでも学習が継続できるようにやってみりました。

心配された子どもたちの心のケアという部分につきましては、教育相談室、子ども未来応援センターなどの関係機関と連携しながら、特に心配な生徒については、連携を密にとりながら、対応させていただきました。

再開後の小中学校の児童生徒の状況といたしましては、6月1日からようやく学校が再開し、本当に久しぶりの登校に喜びを感じている姿がたくさん見られました。学級が半分ずつの登校になったおかげで、今まで登校できなかった子ども、安心して登校できるようになったという児童生徒もいたとのこと。また、そういった中で、新しい生活様式でのスタートに子どもたちも大変緊張感をもって、日頃元気な子たちも静かな雰囲気の中で過ごして

いたようです。また、分散登校時に、前半の子どもたちから、後半の子どもたちへメッセージを残し、やりとりをしていたという学級もあったということで、温かさを感じたところです。

6月15日から通常登校・給食が始まりましたが、久しぶりの全員登校での友人との再会ということで、子どもたちもより一層笑顔が増え、また学級が変わってはじめてすべての子どもたちと顔を合わすというところで、とても喜びがあったのかと思います。そういった中でも、机の間隔を広げながらの一斉授業、給食中もおしゃべりができなく、放送を聞きながら静かに食べるという状況でした。中学校については、給食が簡易給食だったこともあり、給食が足りないといった声もありましたので、中学校は補食を許可しながら対応してまいりました。

部活動につきましても、校長会等で協議し、7月31日までに、3年生は引退。7月13日から市内大会を可とし、8月18日からは市外大会を可として、現在に至っております。

感染拡大防止からの欠席については、1学期の修了式の時点では、合計して、小学校では167名、中学校では10名でした。全体的には、学校ごとに1、2名の児童生徒が欠席していた状況でした。小学校の人数が増えているのは、PCR検査の結果、陽性者が確認されたことから、心配の声が高まり、欠席者が増えたところでございます。

マスクの着用につきましては、これまでは着用徹底をしてきましたが、県からも暑さ対策ということで、友達の離れているときや、外に出て運動しているときは、外すことも容認し、感染拡大防止、熱中症予防というバランスを意識しながらの対応となりました。

夏休みを短くして授業に充てることになったことへの影響につきましては、教育委員会への意見も寄せられておらず、未指導分を補うためということをご理解して下さっているのかと思います。一方で、子どもたちの中では、楽しい夏休みが、プールやイベントが中止になり、遊びに行けないといった状況の中で、残念がっている子たちも多くいるとのことでした。

不登校の状況といたしましては、6月15日時点と30日時点の資料を載せています。30日時点につきましては、10日以上欠席者をもとに書いていますが、先日、7月30日現在の資料がまとまりましたので、報告させていただきます。月3日以上欠席者の率が、6月については、小学校が0.55%、中学校が1.24%、7月については、小学校が、0.71%、中学校が、1.74%。総合的に見ますと、6・7月で小学校が、0.63%、中学校が、1.48%でございました。感染症不安による欠席者の情報ですが、6月については、小学校では131名、中学校では4名、特別支援学校で1名でした。7月につきましては、小学校281名、中学校1名、特別支援学校1名でした。6・7月を通して、全て欠席したという生徒はおりませんでした。

不登校への生徒の対応としましては、教職員向けに子どものSOSを見逃さない具体的なポイントを示したリーフレットの配布や、教育相談室の専任相談員や、スクールソーシャルワーカーによる学校訪問の実施、年3回の巡回の相談の実施ということで、1回目が1学期に行われております。

学習面の状況ですが、今、求められている主体的・対話的で深い学びの「対話的」の部分につきましては、大変難しい状況にあります。技能教科については、音楽の合唱や合奏、家庭科の調理、体育の柔道などについては、難しい状況がありますので、感染拡大の状況を踏まえながら実施していく、もしくは、未実施のままということもやむを得なく、家庭で補っていただくしかないかと考えているところです。未指導部分の内容については、本年度の学習内容に系統的に位置づく内容については、未指導分の内容も含めて指導しており、長期休業の短縮、土曜授業等を活用しながら、未指導分の内容も含め、今年度内にすべての学習が補えるよう努めてまいります。

修学旅行等の学校行事につきましては、子どもたちも大変楽しみにしているところではございますが、校長会等でしっかり情報交換をし、保護者からの意見も大切に聞いていただきながら、実施の有無については、各学校において判断をしていただくようお願いしております。ところが、このような状況を話したのが、6月上旬であり、現在の感染拡大状況を鑑みますと、慎重にならざるを得ないと感じています。そういった中で、各学校の創意工夫により、子どもたちの思い出作りということで、工夫をいただくとありがたいと考えていると

ころでございます。

課題等については、教職員の毎朝の検温、消毒作業等で業務が多忙化しております。また、未指導分を含めた教材研究など労力が増えており、土曜授業、長期休業の短縮により、休暇の取得が難しいことがあげられ、各学校で工夫してくださっていますが、課題としてあげられます。児童生徒については、制限のかかった中での活動について、通常とは違うストレスを感じていたり、中学3年生にとっては、最後の部活動の大会が万全な状態で迎えることができている、または、中止となってしまっているような状況です。小学1年生については、通常であれば、ゆっくりと他学年と交流しながら徐々に小学校の生活に慣れていくところがありますが、なかなかそういう段階を踏めなかったことにより、学校生活に不適應を起こしている児童もいると聞いております。

支援策といたしまして、先ほど市長からもお話があったように、受験対策の一環で、専門の講師に委託し、学力向上を図ることを目的に実施する計画を立てています。また、学習支援員を増員し、児童生徒一人ひとりの学習定着度に応じたきめ細やかな指導を図るため、学級担任の補助や、補習学習など、各校の実態に応じて、教育活動の充実を図っていきたくと考えております。

学校管理運営事業の物的支援として、小・中・特別支援学校に今まで買ってきた保健医療用品や、環境整備に係る費用や、保護者へのお知らせするための通信運搬費などを、各学校へ配分しております。

最後に、スクール・サポート・スタッフの増員ということで、限られた時間の中で、教師の授業準備や児童生徒と向き合うための時間を十分確保できるよう、各学校への配置を進めております。

長くなりましたが、学校教育課からの説明は以上です。

○星野市長

石井先生ありがとうございました。引き続き、コロナ禍における子ども未来応援センターへの相談状況等について、土田子ども未来応援センター所長よりご説明をお願いいたします。

○土田子ども未来応援センター所長

よろしく願いいたします。それでは、お配りした資料②をご覧ください。子ども未来応援センターへの相談状況ということで、令和2年の3月から7月までの件数を記載しております。表の枠下に前年の件数が記載されておりまして、前年と比較していただくと、それほど件数が増えている状況ということはありませんが、7月は前年が14件から今年が24件と増えている状況でございます。相談の内容としましては、子育て、妊娠、病気、DV・虐待、人間関係、教育などのご相談がありました。また、ゴールデンウィーク中に電話相談窓口を開所し、広報等でお知らせいたしましたが、相談はありませんでした。参考に、資料の3ページ目に子ども未来応援センターのチラシがありますが、このチラシを7月10日に各小・中・特別支援学校、保育所、幼稚園の保護者あてに配布をしており、7月の相談件数が増えている要因かと考えられます。また、DV・虐待の件数は、本年3月から7月までの相談件数85件のうち15件、前年につきましては82件中13件という状況でございます。

続きまして、子ども未来応援センターからの確認状況についてですが、これまでの関わりから特に不安のあるご家庭への聞き取りを5月の連休前に行いました。生活困窮の方のうち、生活保護と社会福祉協議会の貸付に1件ずつ結びました。

子どもの貧困対策緊急食糧支援事業につきましては、学校給食や子ども食堂がコロナの影響で休止となったことを受け、その子どもたちに、食の提供をすることや、家庭における子どもの状況などの確認を行うことを目的として実施したところでございます。支援物資といたしましては、レトルトのおかず・ごはんやシリアル食品、缶詰などの子どもでも簡単に食べられる食糧を20食分ずつ配布いたしました。市内の子ども食堂を運営する団体がフードパントリー事業を実施しておりまして、そこに登録されているひとり親家庭にお配りしまし

た。食糧を市の予算で購入し、NPO団体にフードパントリーを開催していただき、市の職員と団体の皆さんで食料を配布したところでございます。配布状況につきましては、全体では93世帯対象がおりましたが、4月がそのうち74世帯、122人分、5月につきましては、この間登録者数が増え全体では105世帯おりましたが、そのうちの80世帯、132人分でした。

子ども食堂団体への食材提供ということで、埼玉県子ども食堂ネットワークから提供された冷凍食品などが、各自治体に配布され、応援センターを通して、市内の子ども食堂団体に配布しました。

また、参考として、産業振興課において、交換期間を5月18日から6月14日までとし、市内飲食店13店舗のお弁当と交換できるテイクアウトチケットを、フードパントリー登録世帯全員に配布しました。参考にテイクアウトチケットの配布資料を添付しております。

子ども未来応援センターからの説明は以上です。

○星野市長

土田所長ありがとうございました。学校教育課長と子ども未来応援センター所長から、コロナ禍における状況についてご報告をいただきました。問題・課題についても整理していただき、ありがとうございました。

それでは、ここで、ご質問・ご意見等を頂戴いただきたいと思います。私から先によろしいでしょうか。まず、学校についてお聞きします。休業中の期間のことと、休業期間明けのことと、二つに分けてお聞きします。まず、休業期間中ですが、本当に突然のことで、現場の校長先生をはじめ先生方は大変なご尽力があったと思います。我々も新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、様々な決断をしたところでございます。特に、新学期が始まるタイミングで、山口教育長をはじめ、教育委員会のご意見を踏まえ、始業式は行うという判断をさせていただきました。なかなかご家庭の中までというわけにはいかないとは思いますが、先生方も訪問していただいたり、課題等を届けていただくなど、きめ細かくご対応いただいたと伺っております。まず、その時期の子どもたちの様子について、特筆すべき出来事や、状況などについてお話しいただければと思います。

○石井学校教育課長

やはり、子どもたちからしてみると、担任の先生も含めてですが、終業式が突然訪れたということで、先生・子どもたちは大変残念な思いだったと思います。子どもたちは、部活動もない中で、どう過ごしていいかという部分はかなりあったのかと思います。また、両親が日中は仕事でいない家庭は、子どもが一人で何をしたらいいかわからないといった話や、逆にずっと一緒にいる家庭は、親と近くなりすぎてしまって、うまくいっていないといった話などがありました。様々な制限が続く状況の中で、子どもたちや保護者の方々は、各家庭での過ごし方に苦慮されていた部分もあったと伺っております。

○星野市長

4月8日に始業式を行ったことに対し、当時様々なご意見をいただきましたが、入学式や始業式を行うということについては、新しい学年に向かうためには、先生と子どもたちの出会い、引継ぎがなければと強く思いましたので、教育委員会の意見に賛同しました。現場は1日しか会えないという中で、大変苦慮されたと思います。長期にわたる休みの中で、4月8日以降、新しい先生と子どもたちが触れ合う機会が少ない状況の中で、子どもたちの新学期以降の変化ということがありましたら、ご報告をいただきたいと思います。

○石井学校教育課長

始業式と入学式があったことによって、本当に短い時間ではありましたが、その後の課題を与えるということや、様々な情報を流す上でも、はっきりと相手がわかっているのも、子どもたちも担任、学級というものを意識しながら生活することができたと考えています。6

月1日をどう迎えたかということも考えると、その出会いがあったからこそ、良いスタートを切れたのかと思います。教育委員会としても、始業式・入学式というのは、大きな意味のあった時間だったと考えています。

○星野市長

そして、6月から学校が始まりました。先程、分散登校中に、分散で会えない友人とメッセージのやりとりがあったとのお話がありました。私もふじみ野小と勝瀬小を見学させていただきましたが、入り口の掲示のところに、午前の子から、午後の子にポストイットで何気ないメッセージが書かれており、大変ほほえましい状況でありました。入学式・始業式は、短い時間であったけれども、新たな学級づくり、新しい子どもたちとの出会い、先生との関係のなかでは、よいスタートできたのかなとイメージをもっております。私が見学に行った学校でも、はしゃいだり、大きな声を出せませんので、おとなしくは感じましたが、落ち着いた中にも、イキイキとしたものを感じました。6月以降の変化という部分ではどうでしょうか。

○石井学校教育課長

新しい仲間とも一緒に遊ぶということができない状況の中で、久しぶりに登校し、新しい生活様式を意識しながらも、仲間と話ができる喜びや、一緒に遊べる喜びというものは大きかったと思います。

○星野市長

その後、担任の先生がクラスをつくる中で、このあと触れる課題があるご家庭がこの状況の中では顕在化するようなこともあったと思います。クラスをつくるという意味では、苦慮された部分があったのでしょうか。また、保健衛生面についてですが、学校の先生が消毒の作業に時間が割かれるという報告がありました。スクール・サポート・スタッフの皆さまが増員されるまでには、少し時間をいただくことになるようですが、それが配備できれば、問題が解消されるか、今後の見通しについて、お聞きしたいと思います。

○石井学校教育課長

クラスをつくるという部分では、6月から分散登校という部分があったので、一斉に集まらないことから、係決めなどが難しいなどの課題があったと聞いております。そういったなかで、6月15日から全員がそろったところで、そこから色々な意味で、クラスづくりが始まったと考えており、先生方もかなり苦慮されたと思います。また、一方で子どもたちの中では、不安を抱えている子どもたちもおり、長く学校を休んでいたために、学校に行きにくくなってしまったということも聞いております。各学校においては、子どもたちの引継ぎがしっかりできましたので、各家庭に連絡するなどの対応はできたと思います。しかし、準備という部分では対応できましたが、クラスづくりという部分では、かなりスタートが遅れて始めているので、まだこの1か月のなかでは、判断しづらいことだと認識しています。

もう一つの消毒につきましては、先生方が協力して、本当によくやってくれています。一方で、通常業務以外の部分でかなり負担が増えていると感じております。この後、スクール・サポート・スタッフや学習支援員が入ることで、少しずつでも負担が和らぐと考えおります。

○星野市長

衛生資機材、消毒液等は十分に足りていますか。

○石井学校教育課長

予算付けしていただいたことや、流通が戻ってきたことにより、調達しやすくなりましたので、問題ないと考えております。

○星野市長

中学生の学力についてですが、2学期が始まったばかりではありますが、6月以降の2か月間で、子どもたちの学習状況の印象はどういうふうに捉えていますか。

○石井学校教育課長

休業期間に、一生懸命にやってきた子、やってきていない子もいるということを含めて、先生方も、全体指導はもちろんのこと、個別にそれぞれ対応しながら、学習を丁寧に進めているところでございます。先生方も、休業が長かった分、教材研究に時間を費やせたのかと考えております。県の学力・学習状況調査も富士見市としては、取り組ませていただきましたが、休業した部分も含めて、その結果を受け止め、今後一人ひとりに応じて、子どもたちがどのような学力をつけているか、また、遅れてしまっているのかを含めて、今後の対応に活かしていくことが大切だと考えております。

○星野市長

6月に勝瀬中に訪問させていただきました。校長先生とお話しする中で、子どもたちの休業期間中の様子を、子どもたちにアンケートしたということで、概要を伺いました。子どもたちも千差万別で、興味を持って教科書を開いてみたという意見や、逆に一日ゲームをしてしまったなどの色々と意見があったようです。

特に、中学校3年生に向けては、進路の決定ということもありますので、いろいろ我々も協議し、学習指導員や民間の事業者による補講を受けられるように、予算付けを行ったところでございます。土曜日でも登校日を設けたり、様々な工夫があると伺っておりますが、全体的な学ぶべきカリキュラムについて、今後の見通しについてはいかがでしょうか。

○石井学校教育課長

その点については、休業期間中から、教育課程研究委員会において、各学校の教務主任級の先生たちを集め、今どのぐらいのものが足りないのか、1か月間授業がなくなった場合は、何時間授業が足りなくて、どう補っていくのかということ、教育委員会が中心となりながら、会議を開いて検討してまいりました。

ここで学校が始まり、各現場でも、何が未指導で、どこで補っていくかということ、計画的に進めているところでございます。今後さらにそれを充実させていくことが重要になってくると考えております。

○星野市長

委員の皆さまからも学校教育に関するご質問・ご意見がありましたらお願いいたします。

○箕輪委員

未指導分を年度内で補うということですが、技能教科によっては、難しいものもありませんが、できないことが想定されることはありますか。

○石井学校教育課長

家庭科の調理が想定されています。今後の感染状況にもよりますが、国も認めている部分もあるので、最悪の場合は、家庭と連携しながら進めざるを得ないと考えております。

○箕輪委員

以前、お聞きした内容だと、小学校の運動会は全11校中止、中学校で秋に予定されているところは、実施する方向と伺っておりますが、現時点で実施する可能性がある学校はありますか。

○石井学校教育課長

全学年で集まって運動会をするということは難しい状況にありますが、秋に開催する予定

である学校については、規模を縮小し工夫しながら、現在のところ開催する予定です。

○寝輪委員

学習支援についてですが、期間が12月5日から予定されていますが、私学受験希望者もこの時期で対応できるのでしょうか。

○石井学校教育課長

県立の高校受験者を念頭においているところでございます。

○深井委員

スクール・サポート・スタッフの配置は、1校につき何名を予定していますか。

○石井学校教育課長

1校につき1名を予定しています。大規模の学校では週3日、小規模の学校では週2日を予定しています。例として、現在、水谷東小には既に週2日入っていますが、つるせ台小には週3日としております。

○小野寺委員

精神的なケアについてお願いになります。学習面・人間関係・進路についても、今後、2学期から3学期にかけ、特に不安やストレスが強くなってくる子が必ずでると思います。こういうストレスを自分で上手に解消できる子も多いとは思いますが、中には不安な気持ちを言葉にできない子もいますし、孤立感を感じて、不安やストレスが強くなる子が必ずいると思います。そういう子たちがいるということを前提に、ぜひ学校の先生方、教育委員会の指導主事の皆さまには、今もそういうお気持ちで職務にあたっいらっしゃるとは思いますが、心のケアが手薄にならないよう、寄り添った支援をしていただきたいと思います。

○星野市長

土田所長から報告の中では、相談件数は3月から5月はそれほどでもなかったということですが、ご指摘いただいたとおり、2学期・3学期、受験に近づくにつれ、またストレスが増えてくるのは道理だと思えます。そういう状況が見込まれる中で、体制的には整っていますでしょうか。

○齊藤教育部長

体制的ということにつきましては、先ほど土田所長からありましたが、子ども未来応援センター、障がい福祉課、教育相談室、学校教育課、児童相談所、警察などの関係機関と連携をとれる体制が整っておりますので、これを維持していきたいと考えております。また、先ほど不登校への対応の中で、教職員への児童生徒のSOSを見逃さない具体的なポイントを示したリーフレットを配布したという説明がありましたが、不登校だけでなく、自殺などの不安がある子についても、具体的なポイントをいくつか挙げており、それを使って、小野寺委員が心配されるような部分についても、子どもたちをしっかりと見ていくことが大事だと考えています。また、コロナ禍における親子の関係の取り方ということをホームページに掲載しておりますので、そういったことも上手く利用しながら、しっかりとケアを進めてまいりたいと考えております。

○寝輪委員

給食についてですが、以前は班ごとに対面で食べていましたが、今はどのように食べていますか。

○石井学校教育課長

今は、一斉に前を見て食事をするといった学校や、半分に分け、半分は窓側、半分は廊下側を向くなどの工夫をしながら食べています。

○星野市長

確認ですが、中学生については、新3年生は2年生のときに、また、小学校については、新中学1年生は小学6年生の時に、全校、修学旅行に行っていますか。今課題となっているのは、新中学2年生と新小学6年生ということによろしいでしょうか。

○石井学校教育課長

全校修学旅行に行っていますので、そうなります。

○渡部委員

新型コロナウイルスという今までの経験にない状況にあると思います。私も、少し体調がすぐれないと、新型コロナウイルスにかかったのではないかと不安な気持ちになります。「人と近づいてはいけない」「触ってはいけない」「大きな声で話してはいけない」そういったことを言われる中で、子どもたちもとても心配な気持ちでいっぱいだと思います。

その状況下で、私は、優先順位を決めることが大事であり、優先順位の1番は命を守ることだと考えています。保護者からの声ということで色々書いてありますが、卒業式をやらせてあげたい、子どもたちを外で遊ばせてあげたいという気持ちもわかりますが、一番は命を守ることです。

また、今“しつけ”を見直すいい機会だと思います。「大勢の前では、大きな声で騒いではいけない」「家に帰ったら手を洗う」「せき・くしゃみをするときは、手を口にあてる」などの、どこの家でも教えなくてはいけない“しつけ”をもう一回見直すべきだと思います。

○星野市長

おっしゃるとおり、様々なことを見つめ直すには、いい機会だと思います。

学校教育について、他に質疑がなければ次に移らせていただきます。続きまして、土田所長からご報告をいただきました内容について、ご質問・ご意見を伺いたいと思います。まず、私から何点か申し上げさせていただきます。センターを設立して3年がたちますが、子ども未来応援センターは、子どもの貧困、または、妊娠期から子育て中のお母様に対する支援が役割のセンターでございます。このコロナ禍においては、ご家庭における子どもと親との関係、経済的に困窮状況にある子どもたちについては、これからも心配される場所です。

小野寺委員からご指摘のとおり、今後、2学期から3学期にかけ、学校における子どもの変化もしかり、同様に家庭にもあるかもしれないということは容易に想像できる場所ではございます。土田所長は4月から異動で所長になっていますから、以前との比較が難しいと思いますが、4月からこれまでの状況、また、これから想定できることなどのご意見をいただきたいと思います。

○土田子ども未来応援センター所長

あまり件数的には目に見えてこないところではございますが、実際に虐待・DV・不登校、子育て・教育関係といったところで、専門の部署に声が寄せられているという情報は、子ども未来応援センターの相談員も情報収集しているところではございます。学校がスタートしてから、子育てや不登校などの相談があったと相談員から聞いておりますので、支援漏れがないようしっかりと進めてまいりたいと考えております。

○星野市長

陽性者の方も増えてきている状況の中で、フードパントリーの活動や子どもの居場所づくりをしていただいている子ども食堂や、学習支援教室の活動状況はどうなのでしょうか。

○土田子ども未来応援センター所長

市内の子ども食堂団体は、大半が公共施設を使用していますので、調理室が使えないことから、子ども食堂自体をやっておられません。ただ、自分のところで子ども食堂活動を行っている団体もいくつかあり、単独で実施している団体は再開に向けて準備を進めていると伺っています。

学習支援教室につきましては、新しい生活様式に沿って、実際に活動を始めていると伺っております。

○星野市長

子ども未来応援センターは市長部局の子ども未来部の所管ですので、あまり委員の皆さまと、子ども未来応援センターの職員がお会いする機会が少ないと思いますので、この機会に何かあれば質問をいただきたいと思います。

○小野寺委員

市の職員や非常勤の方々がいらっしゃると思いますが、それぞれの専門分野などがあれば教えていただきたいと思います。

○土田子ども未来応援センター所長

体制としましては、所長・副所長の他、保健師の正規職員が2名おり、相談員として、正規職員が1名、会計年度任用職員として1名おります。また、それぞれ勤務体制が異なりますが、会計年度任用職員の保健師が1名、相談員が2名、事務員が2名おります。また、ファミリー・サポート・センターに関する事務が今年の4月から移管され、その事務に関する会計年度任用職員が4名おり、2名ずつの交代勤務となっております。

○小野寺委員

ここに書いてあるようなすべての案件に対応できる方々がいるという認識でよろしいでしょうか。

○土田子ども未来応援センター所長

相談自体は、相談員が受付けており、妊娠に関することは保健師が交代で対応しています。不妊検査・不妊治療などの業務は、事務職員で対応している状況です。

○小野寺委員

詳しく教えていただきありがとうございます。市としてこういう相談窓口を設けているというのは素晴らしいと思います。教育相談室と人数的には同じぐらいだと思います。教育相談室は、子どもの教育に関すること、子ども未来応援センターは、もう少し広い分野の相談窓口ということで、教育相談室には相談しづらいけど、子ども未来応援センターなら、言いやすいという方もいらっしゃると思います。情報発信をしっかりといただいて、今後の活躍を期待したいと思います。

○星野市長

例えば、離婚を協議されているような際に、養育費の関係などで貧困に陥りやすいなどの問題もあるかと思います。そういった入り口の部分で相談を受けるような相談会や、子どもだけではなく、若者についても、高校中退してしまったということや、引きこもりをしまったということなど、多岐にわたる相談を受けているというところでございます。シングルマザーになったことが、貧困の入り口につながっているということが言われる中で、この部分の施策は検討しなければならないと考えております。

○渡部委員

素朴な疑問ですが、なぜ簡易給食になったのかお聞かせください。

○石井学校教育課長

当初、給食の準備をするには、かなり前から業者に依頼しなければならないということもあり、また、臨時休業がどこまで伸びるかわからない部分もあったことから、簡易給食を始めたところでは。

○山口教育長

給食については、一番は感染拡大防止を考えたときに、配膳は感染リスクが高いと言われていました。簡単に配って済むもの、極端なことを言うと、パンと牛乳をしばらく出していた自治体もありました。本市としては、段階的に通常に戻していきつつ、感染状況によっては、給食を再び中止するという含めて、検討してまいりました。分散登校から始めたのは、そういう部分もあり、命を守るために、バランスを取りながら慎重にならざるを得なかったところでは。給食の時間は、マスクも外しますし、一番感染リスクが高いと考えられていましたが、今は黙って、向かい合って食べなければ、感染リスクがそれほど高くないと言われておりますので、通常の給食に戻しています。

○深井委員

子ども未来応援センターに電話をしてくる人は大人が多いと思いますが、子どもがかけにくることはありますか。

○土田子ども未来応援センター所長

基本的には、子どもに関する相談窓口ということで、多くは保護者からの連絡や相談が入ります。

○深井委員

もし、いじめがあった場合などで、子どもが自ら相談したいときには、学校以外で相談できる場所はありますか。

○齊藤教育部長

教育相談室はもちろんのこと、県にいじめ通報窓口もありますので、そこにメールするといった方法もあります。

○土田子ども未来応援センター所長

子ども未来応援センターに相談があった場合は、支援先にお繋ぎできますので、子どもからのご相談についても対応させていただいております。

○山口教育長

子どもが、大事にしたいと思っていることが、まずは命、そして、精神的な安定です。子どもたちが、楽しく前向きに学校に来てもらうということが前提にないと、どんなに勉強を取り戻したいと考え、教材をしっかりと用意して授業を進めても、中身に入っていかなければ意味がないと考えています。意味がある学習にしていくためには、命の次に、精神的な安定は重要だと思います。精神を不安にする背景というのは、様々だと思いますが、家庭の中に学校として立ち入るのは限界がありますし、特に近年SNSを通じたやりとりに関しては、学校はもちろんのこと保護者も察知ができないので、問題が起こってから対応になってしまうということを危惧していました。コロナ禍でも、自由な時間が増えたというところで、そういうトラブルが増えるのではないかとこのことを心配しています。今のところ顕在化はしていませんが、大変気にかけているところでは。子ども未来応援センターがキャッチしてい

る情報で、背景にSNSがあるとといったケースがあれば、この機会に教えていただきたいと思います。

○土田子ども未来応援センター所長

子ども未来応援センターに入っているご相談というところでは、現在のところSNS絡みの情報というのは入ってきていません。自粛期間中で、皆さん外に出るといっても少なく、相談自体も少ない状況ではありました。教育長がおっしゃられたように、SNS絡みの相談件数がこれから増える可能性も考えられますので、そういう情報をキャッチした際には、関係機関としっかり連携し、対応していきたいと思います。

○山口教育長

子ども未来応援センターの資料に、子ども未来応援センターからの確認状況という報告がありますが、相談のあり方としては、基本的には相談者から受けるということが前提にはなりません。しかし、これから大事なことは、待っているだけでなく、心配な方には必要なアプローチをしていくことが大事だと思っています。行政であっても積極的に家庭の状況、子どもの状況を知ろうとすることが大事だと考えております。子ども未来応援センターは、こうして実際に活動していただいていることは、とても意義のあることですので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

○箕輪委員

チラシのなかに、学習支援教室のサポートという項目がありますが、これは具体的にどういった内容でしょうか。

○土田子ども未来応援センター所長

学習支援教室を開始するときに、開校するまでの相談や支援を行っています。また、社会福祉協議会に子ども未来応援基金がございますので、子どもの居場所づくりとして活動している団体に基金の活用や手続きの方法などをご案内しております。

○箕輪委員

実際に開校した教室はありますか。

○土田子ども未来応援センター所長

今、学習支援教室は5か所あります。元々学習塾を経営していて、無料で貧困の子どもたちを受け入れてやっていたところもあります。

○箕輪委員

南畑で食堂をやっている方が、学習支援をしています、そういったところも開校しているのでしょうか。

○星野市長

テイクアウトで支えあい事業のチラシの中に書いてある、南畑にあるコミュニティ食堂は、元先生の方が学習支援も行っております。また、学習塾を運営する塾長様は、塾の代金が払えないような学習支援が必要な子どもたちに対し、特別なクラスを作って、対応していると伺っております。

○星野市長

ほかに何かありますでしょうか。特になければ、ここでひとつ皆さまに聞きたいことがあります、よろしいでしょうか。コロナ禍によって、対面することができない中で、市長へのメール等で、小・中学校でオンライン授業ができないでしょうかという内容のご要望

もいただいております。現状としては、こうした環境にないのは事実です。埼玉県内でも公立の小中学校でオンライン授業をやっていたのは一部という状況と聞いています。2学期か3学期の総合教育会議のテーマにしたいと考えているのが、GIGAスクール構想についてです。市としましても、約8,400名の生徒に対し、1人1台のノートパソコンもしくは、タブレットということで準備を進めているところでございます。このことについて、委員の皆さまがどんなご意見があるかご発言をいただければと思います。

○小野寺委員

教育委員会の事務局から、かなり詳しく内容説明をいただいております、教育委員も承知しているところでございます。学校で本当に活用できるのか、どういう授業になるかというのはわからない部分もありますが、このコロナ禍のような状況になってきたときに、オンライン授業ができれば、GIGAスクール構想は非常に大きな効果を発揮するのではないかと思います。

○深井委員

私事ではありますが、息子が塾に行っていて、コロナ禍でZOOMを使ってオンライン授業をやっていました。やる気のある子、ない子も見受けられましたので、良し悪しはあると思いますが、オンライン授業が完璧にできれば、有意義なことだと思いますし、成功させてもらいたいと思います。しかしながら、課題はたくさんあると感じています。

○渡部委員

昨年、STEM教育の話を総合教育会議で議題としてあがりましたが、その際に、自宅のWi-Fi環境などの課題があるというのを聞いて、中途半端だと感じていました。私はもっと早く進めるべきだと思っています。

○簗輪委員

コロナ禍で活用できれば、メリットはかなり大きいと思っています。しかし、それだけで授業をやっているのかということは疑問です。集団でやることも大事だと考えており、画面の中だけでやっていくだけでは、成長につながらないという可能性もありますので、バランスというのが大事だと思っています。コロナ禍がこの先もずっと続くわけではないと思いますので、本流は保っていただきたいと思っています。

○山口教育長

これからの時代の子どもたちにとって、ICTの活用は必要なツールだと思います。この時期に整備していくことは意義のあることですし、学校教育の中でも、これを活用し、より有効な授業を研究していくことは、コロナに左右されず必要なことだと思います。整備を進めています。また、コロナで学校に行けなかった経験から、つながる方法は必要であると考えております。一方で、GIGAスクールはすべての教育を良くすると思ってしまうと危険だと思っています。いかに活用していくのかというのが大事だと思います。一人ひとりに応じた教育が進めば進むほど、一人ひとりがバラバラになってしまっていては、教育の価値が下がってしまうと思います。人がつながりながら、より良い学習が進められるツールとなるよう研究を進めてまいりたいと思います。

○星野市長

オンライン授業というキーワードで、皆さまからご意見を伺いました。GIGAスクール構想については、大きな財源を伴う事業ではございますが、市長としてはしっかりとこれを整えたいということで、山口教育長とともに、進めているところでございます。

また、コロナ禍におけるオンライン授業というのは、危機管理としての一面もあると考えております。感染症といったことが、もしまた起きてしまったときに、しっかりと授業がで

きるという状況を作りたいと考えております。

2学期もしくは3学期にこの総合教育会議において、具体的な議論ができればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、今日のテーマとしてあげた、コロナ禍における学校教育や子どもたちへの環境の課題について、ご議論・ご質問をいただきありがとうございました。状況としては、コロナ禍はまだまだ続くであろうと思いますが、我々としては、子どもたち、市民の皆さまの命を守るということを第一とさせていただき、対策本部は継続中ですので、しっかりと市の役割を果たしてまいりたいと考えております。

最後に、皆さま方には、ご健康にご留意いただき、またお会いできるのを楽しみにさせていただきます、第1回総合教育会議を終了させていただきます。